

論壇

絶妙のバランス重要に

新型コロナウイルスの影響で自宅にこもる生活が続いている。不幸中の幸いというのか、集中して読書をする時間が取れる。そうした中で特に興味を持つて読んだ本が、アセモグルとロビンソンによる「The Narrow Corridor: States, Societies and the Fate of Liberty」(邦訳名「自由の命運」)という著作だ。アセモグル教授は精力的に研究成果を発表するトルコ出身のMIT教授であり、学問的な研究以外に本書のような世界的ベストセラーになるような啓蒙

伊藤 元重 (国際経済学) 大学院教授

書にも取り組んでいる。

この本で提示されている考え方は、「人々の生活の質が向上するためには、国家(state)による強力な秩序の形成と、社会(society)による国家の支配への対抗力」の二つの絶妙のバランスが重要となるということだ。国家による支配が強過ぎれば、国家派、スンニ派、シーア派など、さ

国家の力と社会の役割

民の犠牲の元には為政者が権力を振るう独裁国家となってしまう。国家の力が弱かったり、国家が存在しない中で市民が勝手気ままに行動したりすると、歪んだ社会が成立してしまう。

この本では、古代のギリシャから現在に至るまでのさまざまな国家と社会の姿が描かれている。ち

なみに、北朝鮮の例を挙げるまでもなく、独裁的国家が人民に多大な犠牲を強いている例は現代でも少なくない。他方で国家が機能していないケースもある。この本で取り上げられている中東のレバノンの事例は興味深い。独立以来、この国の政府の機能はキリスト

社会をきちんと律することができ

新しいウイルスのような危機的

な状況でどこまで国家の管理を強めるのかは難しい問題だ。感染を一刻も早く収束させ経済を回復させるためには、いまの日本以上に強力な国家による介入の方が有効であるという議論は当然成り立つ。ただ、中国が示したように国家が強力に個人の行動を制限する姿は、平時に戻っても国民の自由を大きく阻害するような国家が居座り続けるという恐怖もある。

感染抑止政府介入が鍵

新型コロナウイルスの感染の広

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。